



# みやがや

がっこうきょういくもくひょう  
～学校教育目標

【知】

【徳・体】

かた  
き方をつくる子

【公・開】

じぶん み 未来をつくる子  
自分を見つめ ともに

ひび あ ゆたかな まな なか じぶん み ともに たんきゆう  
響き合う豊かな学びの中で 自分を見つめ ともに 探究する子

たくましく しなやかな 心と体をもち 互いを大切にし ともに けんこうな生

ひと かがわりの あいかわり または 話りあふ または 話りあふ 話りあふ 話りあふ

## 「失礼します。1年〇組の〇〇〇〇です」

校長 鳥山 真

1年生が興味深そうに校長室の中をのぞいています。「どんなところかな」「中はどんなふうになっているのだろう」「校長先生はいるのかな」と話しながらそっとのぞいています。と、思っていると「校長先生～」と大きな声を上げて突然入ってくる子もいます。「びっくりしちゃったよ。急に入ってきたらだめだよ。」という、次にはガラッと扉を開けてやっぱり大きな声で「校長先生～」。確かに中には入ってきていません。「進歩がみられるな」と思いました。本当に1年生にはいろいろな子どもがいて楽しいです。そして、一人ひとりとてもかわいいです。

先生方もあえてすべてを一から教えることはしないようです。これは良いことだと思います。いろいろな人とかがわり、時には注意されたり、失敗をしてしまったりしながら1年生はいろいろなことを学んでいきます。そして、そのうちに、「トントン（扉をたたく音）」「失礼します。1年〇組の〇〇〇〇です。校長先生にお話があってきました。入ってもいいですか。」という立派な態度を身に付けているのです。

子どもたちが学校生活の中で、身に付けることはたくさんあります。できれば教えてもらうだけでなく、自らが必要感を感じて学んでいく方が、よりしっかりと身に付くのではないかと思います。自ら身に付けたことは、しっかりと意識付けがされるからです。そのためには私たち職員側に待つゆとりも必要だと思います。「どうすればよかったんだろうね」と、子どもたちが考える時間を作っていきたいです。そしてそこで導いた答えが、たとえ間違っていたとしても、「じゃあやっごらん」と言えるぐらいの気持ちのゆとりも持ちたいです。そんなゆったりとした気持ちで子どもたちと過ごすことができるような学校にしたいです。そのためにはまだまだ工夫することがあるのではないかと思います。

2月に幼稚園、保育園と交流した去年の1年生は園児の手を引きながら校長室を訪ねてくれ

ました。もちろんこう言って入ってきました。「失礼します。1年〇組の〇〇〇〇です。幼稚園の子に校長室を案内しに来ました。入ってもいいですか。」